

「豊臣秀長(堺屋太一著)」の史跡をめぐる

2023.06.11
草雲

【1】伊木山城跡（山城）

場所：岐阜県各務原市小伊木4（犬山城の対岸下流の山）

築城年：1561年

築城主：伊木忠次

主な城主：伊木氏

備考：伊木山山頂への登り口の立て看板には以下のことが書かれていた。

伊木山にあった伊木山城（砦）は、対岸の犬山城と鶺沼城とのつなぎの城として重要な働きをもっていた。1564年、織田信長は、東美濃へ攻め込むための足がかりとして、この地区を攻撃し、鶺沼城主の大沢次郎左衛門を中心とする齋藤方の抵抗にあい苦戦した。そこで、信長は策略家であった家臣の木下藤吉郎に鶺沼城と伊木山城（城主・伊木清兵衛）の攻略を命じた。木下勢の蜂須賀隊は、木曾川沿いを伊木山城へ向かった。蜂須賀小六は伊木清兵衛と親しかったため、木下藤吉郎の書状を見せ、戦わずに、伊木勢を木下勢に引き込むことに成功した。その後、勢力の衰えた大沢勢は、木下勢に攻め落とされた。この地域を制した織田方は、伊木山山頂を美濃や尾張の見張り場とした。



【伊木山からの犬山城と鶺沼城の遠景】



【伊木山山頂まであと173m】

【2】松倉城跡（平城）

場所：岐阜県各務原市川島松倉町（犬山城側の岸下流、各務原大橋より、下流に向かって堤防沿い250m）

築城年：1532年

築城主：富樫頼定

主な城主：坪内氏

備考：木曾川堤防沿いの立て看板には以下のことが書かれていた。

この地（松倉上ノ島）は、坪内氏の古城跡である。戦国の頃、加賀国（現石川県）の富樫氏の庶流の坪内内藤左衛門尉頼定が尾張国に来て、犬山城主の織田信康（信長の叔父）に仕えた後、1547年に、初代松倉城主となり、松倉を領地とした。4代目城主の坪内（喜太郎）玄蕃頭利定は、織田信長に従い、たびたびの合戦に臨み、武勲を輝かせた。しかし、信長の没後は羽柴秀吉と不和となり、本領を離れ、一時、金山（現益田郡金山町）に退くことになった。たまたま、1590年、徳川家康に迎えられることになり、1600年の関ヶ原合戦には、井伊直政の軍に属し、抜群の戦功をたてた。その功により、家康から直々に感状を賜り、翌年、羽栗、各務両郡において、6,533石を賜ることになった。その後、坪内氏は旗本を仰せつかり、坪内宗家は、江戸に出府し、幕府の組織の中で、重要な地位を占めた。

「豊臣秀長(堺屋太一著)」の史跡をめぐる

2023.06.11
草 雲

[2] 松倉城跡 (平城) つづき



【松倉城跡】



【松倉城跡沿いの木曾川堤防】

[3] 犬山城跡 (平山城)

場 所：愛知県犬山市犬山北古券 65-2

築 城 年：1537年

築 城 主：織田信康（織田信長の叔父）

主な城主：織田氏、池田氏、石川氏、成瀬氏

備 考：尾張国と美濃国の境にあり、木曾川沿いの高さ約 88 メートルほどの丘に築かれた平山城である。別名の白帝城は木曾川沿いの丘上にある城の佇まいを長江流域の丘上にある白帝城を詠った李白の詩にちなんで荻生徂徠が命名したと伝えられる。旧丹羽郡にあり、天守のみが現存し、江戸時代までに建造された「現存12天守」のひとつである。また、天守が国宝指定された5城のうちの一つである。

前身となる岩倉織田氏の砦を織田信長の叔父の織田信康が改修して築いた城である。その後、池田恒興や織田勝長が入城、豊臣政権のときに石川貞清（光吉）が改修し現在のような形となった。また、小牧、長久手の戦いや関ヶ原の戦いにおける西軍の重要拠点となった。



【犬山城跡と木曾川】



【犬山城】

「豊臣秀長(堺屋太一著)」の史跡をめぐる

2023.06.20
草 雲

[4] 関城跡 (山城)

場 所：岐阜県関市山ノ手 (安桜山)

築 城 年：1528年

築 城 主：長井長弘

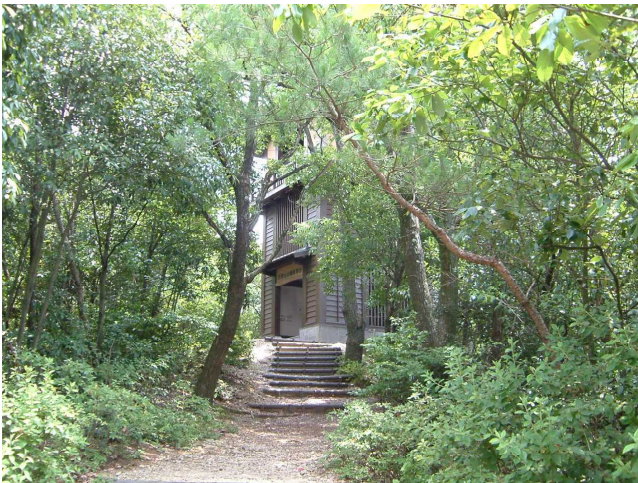
主な城主：長井道利

備 考：関城は齋藤龍興の重臣である長井道利（長井隼人）が城主を務めた城。織田信長による東美濃侵攻（堂洞・加治田合戦）の際には、堂洞城、加治田城ともに、齋藤方の守りの要とされた。しかし、加治田城主の佐藤紀伊守が織田方に内通したために堂洞城が落城すると、関城も包囲された。関城主の長井隼人は撤退し、そのまま廃城となった。
安桜山（あさくらやま）の尾根の一番高い所（本丸跡）に設置された展望台の看板には、以下のことが書かれていた。

信長の東美濃侵攻に対抗した山城である。1565年、信長が堂洞城を攻めた時に、関地域を治めていた長井隼人が陣を張った山城と云われる。（「信長公記」）

特徴（略）

以上、4つの特徴を備えた山城であったが、織田の大軍に包囲され、城主は戦わずにして、逃げ出したと云われている。



【安桜山山頂の関城本丸跡の展望台】



【展望台からの展望】

[5] 堂洞城跡 (平山城)

場 所：岐阜県加茂郡富加町夕田

築 城 年：不明

築 城 主：不明

主な城主：岸信周

備 考：堂洞城本丸跡の立て看板には以下のことが書かれていた。
堂洞城は蜂屋城主の岸佐渡守信周のたてこもった砦である。天下平定を目指して尾張から美濃に攻め込んだ織田信長は 1565年8月、この砦を攻撃して落城させた。はじめ信長は勘解由（岸信周）の武勇を惜しんで投降を勧告したが、主君である齋藤氏との義を重んじた勘解由はこれを固く拒んだため戦いとなった。信長は8月28日高畑山に本陣を構え、先に通じた加治田城主佐藤紀伊守と共に夕田と蜂屋の両面より堂洞城の攻撃を開始した。勘解由は城兵と共に信長の軍勢を迎え撃ち、午前8時から午後4時までの8時間に亘って抗戦したが、長男信房は討死し、敵兵また城内に乱入するに及び、城に火を放って妻と共に自害して果てた。

「豊臣秀長(堺屋太一著)」の史跡をめぐる

2023.07.06
草 雲

【5】堂洞城跡 (平山城) つづき



【堂洞城跡入口の石碑】



【堂洞城本丸跡】

【6】加治田城跡 (山城)

場 所：岐阜県加茂郡富加町加治田

築 城 年：1558 - 1570 年

築 城 主：佐藤忠能、佐藤忠康

主な城主：佐藤氏、齋藤氏、森氏

備 考：加治田城は、関城・堂洞城と並ぶ中濃三城の一つである。一度も落城したことがなく、敵を全て退けたことから、却敵城と呼ばれた。中濃では、関・加治田・堂洞の三城が反信長の盟約を結んでいた。この折、犬山城を攻略した信長は、加治田・堂洞の二城に対し圧力を強めた。これに対し、堂洞城主の岸勘解由は反信長の姿勢を貫いた。一方、加治田城主の佐藤紀伊守忠能は時代の流れを察して信長の内通に応じた。そして、信長の軍勢が鶴沼城、猿ばみ城へと侵攻し、堂洞城を包囲した。そして、加治田城主の佐藤忠能は、信長勢と共に堂洞城へと攻め上がり、これを攻め落とした。しかし、佐藤忠能は戦死し、信長の命で、齋藤道三の末子の齋藤利治が加治田城主となった。本能寺の変後、東濃で勢力を伸ばす森長可に所領ごと統合された。その後、森氏によって、加治田城は廃城となった。



【加治田城本丸跡】



【加治田山山頂からの展望】

「豊臣秀長(堺屋太一著)」の史跡をめぐる

2023.06.11
草雲

[7] 猿啄城跡 (山城)

場所：岐阜県加茂郡坂祝町勝山地内

築城年：1400年頃

築城主：西村喜政

主な城主：西村喜政、田原氏、多治見修理、川尻鎮吉

備考：1547年、多治見修理は猿啄城を田原氏から略奪した。1565年、織田信長は、家臣の丹羽長秀を総大将として、東美濃攻略を開始した。丹羽長秀の先鋒であった川尻鎮吉は猿啄城を攻略し落城させた。猿啄城は、信長によって勝山城と城名が改められ、川尻鎮吉が城主に命じられた。多治見修理は齋藤氏に属する堂洞城の岸勘解由の下へ落ち延びた(堂洞合戦)。その後、1575年に川尻鎮吉が岩村城に移ると、猿啄城は廃城となった。



【城山山頂からの展望】



【城山山頂の展望台】

[8] 鵜沼城跡 (山城)

場所：岐阜県各務原市鵜沼南町7-23

築城年：1429 - 1441年頃

築城主：大沢治利

主な城主：大沢氏、池田氏、中川氏

備考：1429年～1441年頃に大沢治利によって築かれたと云われる。大沢治利が和泉国から美濃に移ってきて城を築いたと云う。

大沢氏は斎藤道三などに従い、1564年に織田信長は木下藤吉郎に鵜沼城の攻略を命じるが、鵜沼城主・大沢正重は強く抵抗。藤吉郎の調略によって正重は降伏するが、信長は降伏した正重の変心を恐れ殺害を企てた。しかし、藤吉郎の計らいで正重は逃がされたと云われる。その後、鵜沼城は犬山城主の池田恒興に与えられた。小牧・長久手の戦いの中、1584年、秀吉勢の池田恒興は、東美濃へ向かうと見せかけて旧領である鵜沼城へ入城し、犬山城を攻略した。



【木曾川の犬山側岸から望む】



【木曾川の鵜沼側岸から望む】